

川島理一郎 （りいちろう） 洋畫家。明治十九年二月九日栃木縣生れ。昭和四十二年十月八日没（八十八一九七）。明治二十八年アメリカ留學。四年ブレンスに渡り、大正十一年サロン・ドートンに會員。翌年歸國し、十五年國畫創作協會洋畫部創設會員、昭和十一年女子美術學校教授、二十二年日本美術院會員、二十五年新世紀美術協會創設會員。著書『旅人の眼』（昭和十一年五月二十日、再刊、二十二年二月二十日 龍堂閣）、『縁の時代』（昭和二十二年二月二十日 龍堂閣）、『北支と南支の統』（昭和二十五年四月二十日、普及版、二十二年二十日 龍堂閣）、『大陸戦史一書と二文』（今著・陸軍省報道部編、昭和二十六年二月十日 陸軍省報社）、『縁の感覺』（昭和二十二年十月十五日 汲路書房）、『美術の都・パリ』（昭和二十七年四月一日 美術出版社）『みづゝの文庫』（等）。